

(一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
令和5年度 第3回ナノ理工学情報交流会  
「脱炭素を実現するエネルギー技術」

---

本年度第3回目のナノ理工学情報交流会を開催いたします。産学双方の意見交換の場として、コンソーシアム会員をはじめ、ご関心をお持ちの多数の方々のご参加を歓迎いたします。

**主催:** (一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
**共催:** 大阪大学エマージングサイエンスデザインR<sup>3</sup>センター、  
大阪大学産業科学研究所産業科学ナノテクノロジーセンター

**開催日時:** 令和5年12月18日(月) 13:00~17:20

**開催場所:** 大阪大学豊中キャンパス 文理融合型研究棟3階305号室

**遠隔配信地:** 四日市商工会議所サテライト教室  
また、オンラインでの配信も予定しております。下記に記載している事務局まで、参加のお申込みをお願い致します。ご指定のメールアドレスに情報交流会参加の招待メールを送付致します。

**開催趣旨:** コロナによる経済停滞期が過ぎ、世界のエネルギー消費は再び増大傾向となっている。一方では、脱炭素社会実現に向けた取り組みも加速的に推進する必要があり、環境配慮型のエネルギー関連技術に期待が集まっている。そこで、今回の情報交流会では、今後のエネルギー政策をはじめ、エネルギーマネジメントシステムや人工光合成、電池分野の最新技術を解説する。

**費用:** コンソーシアム会員、学生及び大阪大学教職員は無料。  
(コンソーシアム企業会員の場合、社内から何名でも無料で参加が可能です。)  
四日市市商工会議所、けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム会員、  
大阪商工会議所の技術・事業開発研究会及び環境・エネルギービジネス研究会の  
会員企業、日本オプトメカトロニクス協会の会員企業は無料。  
上記以外の参加者は資料作成費として5,000円/人を頂戴致します。

**参加登録:** 氏名、所属、参加会場あるいはオンライン参加、連絡先住所を記載の上、メールにて大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局へお申込み下さい。

E-mail: nano-cons@nanoscience.or.jp

HP: <http://www.nanoscience.or.jp/>

**登録締切:** 令和5年12月11日(月)

**問い合わせ:** 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局  
TEL:06-6853-6859(FAXと共通)

## [講演プログラム]

13:00   13:10	<b>開会挨拶</b> 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム 代表理事 伊藤 正
13:10   14:10	<b>普遍元素と分子性ユニットを活用した二酸化炭素変換固体触媒の開発</b> 前田 和彦 氏 (東京工業大学 理学院 教授)  CO <sub>2</sub> 変換のための固体触媒の開発は、カーボンニュートラル社会の実現の観点から近年重要性が増している。本講演では、普遍元素と分子性ユニットを使って組み上げたCO <sub>2</sub> 変換に活性な光触媒系について、我々の最近の成果を中心に紹介する。
14:10   15:10	<b>金沢工業大学におけるカーボンニュートラルの取組み</b> 泉井 良夫 氏 (金沢工業大学 工学部 教授)  金沢工業大学では、再エネ、地産地消、エネルギーレジリエンスをキーワードに、社会実装をベースにカーボンニュートラルを目指した取組みを進めている。白山麓キャンパスでは、再エネの電気、熱、水素を活用したエネルギーマネジメントシステムを構築、さらに、扇が丘キャンパスでは、直流給電システムを実事業として構築し、再エネ電力を直流でキャンパス内に供給している。産学連携による、これら社会実装の概要や人材育成への効果についても紹介する。
15:10   15:20	(休憩)
15:20   16:20	<b>2050年ネットゼロ・GXの実現に向けた環境省の取組について</b> 泉 勇氣 氏 (環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 課長補佐)  2050年ネットゼロ及びGX(グリーントランスフォーメーション)の実現に向けた国内の動向や、地域・暮らしやバリューチェーンの脱炭素化及び再生可能エネルギーの最大限導入といった環境省が精力的に進めている取組・施策・今後の展開について紹介する。
16:20   17:20	<b>リチウムイオン伝導性酸化物固体電解質の開発と固体電池への応用</b> 彦坂 英昭 氏 (日本特殊陶業株式会社 ビジネスインプリメンテーション本部 主席専門職)  再生可能エネルギーの普及に伴い、蓄電技術の重要性が高まってきている。数多ある次世代蓄電池の候補の中でも固体電池が有望視されており、使用される「固体電解質」はキーマテリアルである。本講演では、日本特殊陶業におけるリチウムイオン伝導性酸化物固体電解質の開発と固体電池への応用に関して紹介する。

### オーガナイザー:コンソーシアム企画運営委員

沖野 剛史	(株)東芝
辻 良太郎	(株)カネカ
鈴木 啓悟	(株)村田製作所
前田 和幸	住友電気工業(株)
稲垣 克敏	JSR(株)
山木 健之	パナソニック(株)
伊藤 正	大阪大学
宮坂 博	大阪大学
藤岡 透	大阪大学